



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）、'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床・エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



mRNA COVID-19 ワクチン接種後の若年成人における心臓突然死のリスク評価（オレゴン州）

若い男性において、mRNA COVID-19ワクチン接種後の心筋炎の報告がある。米国オレゴン州において、若者が接種後に心臓病で死亡する可能性についての調査結果が報告されているので紹介する（1）。

はじめに

- 2020年12月、食品医薬品局は米国で2種類のmRNA COVID-19ワクチンの使用を認可した。早期のワクチン供給は医療従事者と長期介護施設の入居者に優先された。その他の人々には段階的にワクチン接種が行われ、高齢者または高リスクの病状を持つ人から始めて、健康な若い人で終わった。
- オレゴン州では、2021年4月19日に16歳以上の健康な人がワクチン接種の対象となった。そして、2021年4月には、特に若い男性のワクチン接種者において、接種後の心筋炎の報告が出始めた。
- イスラエルの研究者らは、mRNA COVID-19ワクチンに関連する心筋炎のリスクは、接種者10万人当たり2.13人であり、青年および若年成人男性で最も高いと推定した（10万人当たり10.69人）。
- 2023年7月17日の時点で、オレゴン州の心筋炎による死亡例は連邦ワクチン副作用報告システムには報告されていない。
- 2022年後半、これまで健康だった若いアスリートの突然死の報告で、mRNA COVID-19ワクチン接種が原因であることが示唆され、一般報道に掲載され、その後医学文献にも掲載された。
- オレゴン州の若者が接種後に心臓病で死亡する可能性があるかどうかを確認するために、オレゴン州の死亡証明書データが調査された。

方法

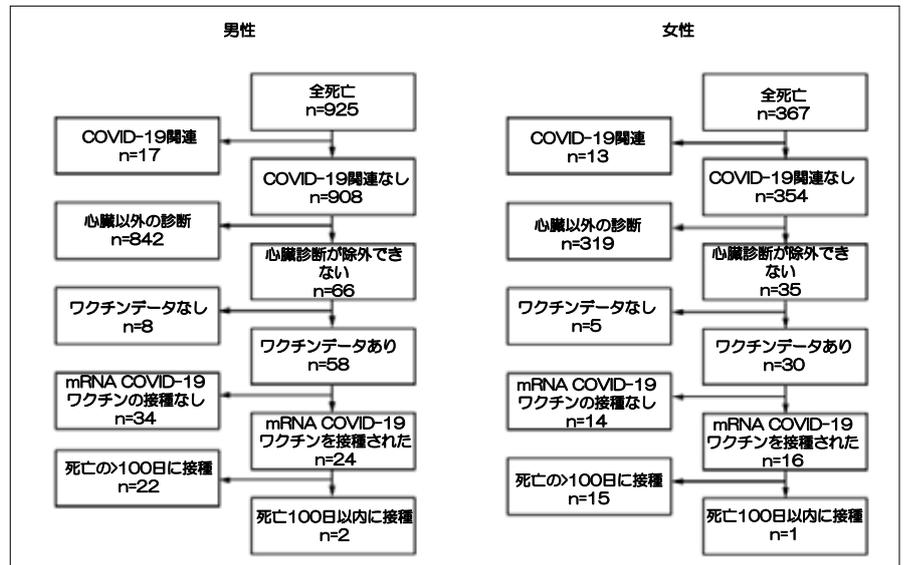
- ALERT予防接種情報システムは、オレゴン州の州全体および生涯にわたる予防接種登録簿である。COVID-19のパンデミック中、オレゴン州ではすべてのCOVID-19ワクチン接種について、予防接種情報システムに報告することが義務付けられた。
- 最近のmRNA COVID-19ワクチン接種が原因と考えられる若者や若年成人の心臓突然死の発生状況を確認するために、調査員らはオレゴン州の死亡証明書データベースを検索し、根本的な死因および死亡に寄与するその他の重大な状態の記録において、「突然死」、「不整脈 (arrhythmia)」、「不整脈 (dysrhythmia)」、「心停止 (asystole)」、「心停止 (cardiac arrest)」、「心筋炎」、「うっ血性心不全」、「不明」、「未確定」、「保留中」が挙げられた2021年6月1日から2022年12月31日までに死亡した16～30歳の人を特定した。

結果

- オレゴン州では、2021年6月から2022年12月にかけて、16歳から30歳までの1,292人の死亡が確認された。これらの死亡者には、男性925人（72%）と女性367人（28%）が含まれた（図）。

【男性死亡者】

- 925人の男性死亡者のうち、直接の死因または死因の一因としてワクチン接種が記載された死亡診断書はなかった。
- 男性死亡者17人（2%）がCOVID-19によるものと考えられた。死亡診断書には、男性死亡者の842人（91%）について、心臓以外の死因または死亡に寄与したその他の症状が記載されていた。
- 残りの66人（7%）の男性死亡者では、死亡診断書に基づいて心臓による死因を除外することは不可能であった。これら66人の死亡者のうち、58人（88%）では予防接種情報システムの接種記録が入手可能であった。そして、少なくとも1回のmRNA COVID-19 ワクチン接種が24人（41%）に記録されていた。



16～30歳の死亡者について、性別、死因、mRNA COVID-19 ワクチン接種状況別（N=1,292）— オレゴン州、2021年6月-2022年12月

- 予防接種情報システムでmRNA COVID-19ワクチン接種歴のある男性死亡者24人のうち、2人（8%）が接種後100日以内に死亡した。最初の死亡者は、接種の21日後に自然死したとして記録された。死亡診断書に記載された直接の死因は高血圧によるうっ血性心不全であった。その他の重大な状態には、病的肥満、2型糖尿病、閉塞性睡眠時無呼吸症候群が含まれた。
- 2人目の死亡者は死亡日の45日前に接種していた。死因は「未確認の自然死」と記録されていた。毒物検査の結果は、アルコール、カンナビノイド、メタンフェタミン、アヘン剤については陰性であったが、アリピプラゾール、リタリン酸、トラゾドンが検出された。

【女性死亡者】

- 367人の女性死亡者の中で、ワクチン接種が直接の死因または死因の原因となった死亡証明書はなかった。13人（4%）の死亡はCOVID-19によるものとされた。
- 319人（87%）の死亡診断書には心臓以外の原因が記録されていた。残りの35人（10%）の女性死亡者のうち、30人（86%）に予防接種情報システムの記録が特定され、そのうち16人（53%）には少なくとも1回のmRNA COVID-19ワクチン接種を受けた記録があった。
- これらの死亡者のうち、接種後100日以内に死亡したのは1人だけであった。この人は接種の4日後に死亡した。死因は自然死であると記録されており、直接の原因は不明であるが、僧帽弁狭窄症による低酸素症を伴う慢性呼吸不全の結果であると記載されていた。

考察

- 2021年1月から2022年1月までの米国40の医療システムからの電子医療記録データによると、5歳以上の人の心合併症のリスクは、mRNA COVID-19ワクチン接種後よりもCOVID-19後のほうが有意に高いことが示されている。
- CDCの国立保健統計センターのデータによると、15～34歳のオレゴン州住民の心臓病による背景死亡率は、2019年と2021年にそれぞれ10万人当たり2.9人および4.1人であった。2021年のパンデミックの年にはこの割合は高かったものの、心筋炎はこの年齢層の人の死亡原因としては稀であった。
- 2021年6月から2022年12月までの16歳から30歳のオレゴン州住民の死亡者1,292人を対象としたこの研究では、接種後100日以内に心臓が原因であると明確に考えられる死亡者はいなかった。男性1人が接種から45日後に原因不明で死亡した。
- 2021年5月1日から2022年12月31日までに、合計979,289回のCOVID-19ワクチンが16歳から30歳のオレゴン州住民に接種された。同時期に、この年齢層のオレゴン州住民30人の死因としてCOVID-19が挙げられている。これら30人の死亡者のうち、ALERT 予防接種情報システムには22人（73%）の記録があり、そのうち、ワクチンを接種していたのは3人だけであった。
- ワクチン接種した人では、COVID-19関連死亡率が大幅に減少することが示されている。米国でCOVID-19ワクチンが利用可能になってから最初の2年間でワクチン接種により推定1,850万人の入院と320万人の死亡が防止された。

【文献】

1. Liko J, et al. Assessment of Risk for Sudden Cardiac Death Among Adolescents and Young Adults After Receipt of COVID-19 Vaccine — Oregon, June 2021–December 2022
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/73/wr/pdfs/mm7314a5-H.pdf>